

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT

米

今年の病害虫の状況と対策

農業経営支援課 山村 哲平



ウンカ類防除

(早生：7月下旬 中・晩生：8月上旬)

確実な防除のためにはウンカに効果の高い箱施用剤を使用しても本田防除を出穂までに1回は行いましょう。

防除時期は株元に薬剤がかかりやすい出穂前防除が基本です。出穂後の防除では効果が低くなります。

カメムシの防除時期

1回目 … 出穂直前

2～3回目… 穂揃期～乳熟期（前回散布の7～10日後）

6月末の病害虫発生予察情報ではカメムシ類の発生量が「平年より多い」となっています。第1世代の防除が大切になってきますので、適切な防除をお願いします。

※イネカメムシによる不稔対策… 出穂期にも防除が必要です。

イネカメムシは基部を吸汁します。穂揃期以降の被害では斑点米が発生しますが、色彩選別機を用いても除去にくいいため薬剤による防除が必要です。

米粒を充実させる水管理

幼穂形成期から出穂後10日間は多量の水を必要とします。水を切らさないような管理をし、それ以降は間断かん水を繰り返します。

穂肥の施用について

生殖成長期に移り、穂づくりの重要な時期です。葉色の落ちていない稲は、肥料成分が残っている為、倒伏の危険がありますので穂肥は施用できません。また、コシヒカリは倒れ易いため、他の品種よりは遅らせて行う必要があります。なお、一発肥料を使った場合は穂肥を施肥する必要はありません。

※穂肥は出穂2週間前までに、十分灌水たんすいをして3日間は止め水で管理します。